

(事後評価)

工学系イノベーションの男女共同参画モデル

(実施期間：平成 21～23 年度)

実施機関：東京都市大学（総括責任者：中村 英夫）

プロジェクトの概要

1) 女性研究者のための具体的な取組

- ①プラス1 P j：各学科で1名の女性教員採用を促進する方策として、本学独自の教育講師制度を有効に活用し、女性教員の採用の機会を増やし、女性が理工学の場に登場する機会を増やす P j。
- ②広がれ！理工系大 P j：現在、行われている室蘭工大との戦略的大学連携支援事業を足がかりに本学が中心に理工学系大学との連携を図り、女性研究者や技術者の交流やロールモデルの提示を行い、男女共同参画を推進する P j。
- ③科学とともだち P j：附属女子中高校と連携し、中等教育の場に理科支援を行う P j。
- ④ロールモデル発掘 P j：卒業生や女性研究者・技術者の情報を集め、ネットワークを構築する P j。

2) 期待される効果

- ①プラス1 P j：女性の採用の機会の増加および女性研究者の発掘。
- ②広がれ！理工系大 P j：工学系大学の連携強化、理工系全体の男女共同参画推進。
- ③科学とともだち P j：理工系進路選択の裾野を広げ、次世代及び次次世代の育成推進。
- 1 ロールモデル発掘 P j：卒業生や女性研究者・技術者の発掘。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組の内容	システム改革の成果	実施体制	実施機関終了後における取組の継続性・発展性
A	a	a	a	a	b

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

理系技術者を養成する機関の特色を生かした取組であり、理工系の女性研究者のための

支援体制及び相談体制を整備し、女性教員の採用増加に意欲的に取り組んだ。女性教員比率の向上については全学・工学部ともに目標を十分に達成しており評価できる。今後は介護支援にも取り組み、さらに充実した女性研究者のための研究環境を整備することを期待する。

・**目標達成度**：女性教員が在籍しない7学科に各1名の女性教員を採用することを目標とし、4学科について採用を達成した。女性研究者比率は機関全体及び工学系ともに目標値を上回っており評価できる。

・**取組の内容**：女性教員が在籍しない7学科に各1名の女性教員を採用するための「プラス1Pj」は、教育講師制度を活用し女性教員の採用を促進する独自の取組であり評価できる。女性研究者のための環境整備、意識改革に加え、中高生、学部・大学院の女子学生を対象とした次世代育成に積極的に取り組んだ。

・**システム改革の成果**：女性教員の数が大幅に増加しており、「プラス1Pj」等の意欲的な採用推進策の効果が表れており、理工系私立大学におけるモデルとなる取組として評価できる。

・**実施体制**：学長が統括する男女共同参画委員会の下に、女性研究者支援室を設置し、全学的な事業実施体制を整備しており評価できる。

・**実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：事業実施期間終了後も男女共同参画室として体制と予算を確保し、女性研究者のみならず男性研究者も対象として取組を継続することは評価できる。しかしながら、研究支援員配置等の女性研究者のための基本的な環境整備の取組、女性教員採用促進の取組等、成果のあった取組が継続されていない。これまでのシステム改革を後戻りさせないよう、取組の継続について再検討を期待する。